

明恵の顕密観

——五秘密与五聖同体説を中心に——

野 呂 靖

一、はじめに

明恵晩年の著述である『華嚴仏光三昧観秘宝蔵』二巻には、『五秘密与五聖同体説』と称される、文殊・普賢・観音・弥勒・毘盧遮那の五聖と、欲・触・愛・慢・金剛薩埵の五秘密尊とを「同体」とみる思想が表されている。同体説は、明恵晩年の顕密合行の理論面を担った思想といえ、明恵の顕密理解を深る上で極めて重要といえるだろう。

明恵が顕教（華嚴）と密教を教学上どのように位置づけていたかについては、石井教道氏が「教義上に於ては、華嚴經と密教とは同価値である」と述べられているが、末木文美士氏は「明恵においてはむしろ顕密を同等に位置づける場合と、密を上置く場合がある」とし、前川健一氏は「顕教と密教とは、顕密一致の上で、事相の点で密教が優位に立つが、同時に密教を根源的なものとして評価している面もある」とするなど、顕密一致を基本的立場とした上で密教説の優位

性を指摘している^②。これまで同体説は、石井教道氏によって紹介されて以後、本説を中心的に取り扱った研究は行われてこなかった^③。本稿では、『秘宝蔵』に見られる同体説の検討を通して、明恵の思想上における密教教義の位置付けを明らかにしたい。

二、同体説の形成過程

まず明恵の伝記資料より、五秘密法と明恵との関わりに注目すれば、比較的早い段階から五秘密法への関心が窺える。

建久二（一一九二）年ノ上覚房行慈から『五秘密儀軌』伝授（明恵上人資料三・一八五頁）

建久六（一一九五）年『五秘密』抄出（田中久夫『明恵』二七頁）

建保六（一二二八）年六月二十日弟子隆弁に五秘密法の伝授（明恵上人資料三・一八四頁）

承久二（一二二〇）年七月隆弁に五秘密法の講義（明恵上人資料三・二四六頁）

承久三年（一二二二）十一月九日『秘宝蔵』二巻撰述。

貞応二年（一二二三）三月二十五日五秘密法に付いて仏光観を修す（明恵上人資料二・一五七頁）

嘉祿元（一二二五）年八月十二日五秘密法を修す（田中久夫『明恵』一五〇頁）

嘉祿二（一二二六）年六月一日五秘密法・光明真言法を修す（田中久夫『明恵』一五三頁）

寛喜四（一二三二）年正月十九日臨終に際し五聖に対して入観し、五秘密法を行じる（明恵上人資料一・五六七頁）

これによって、五秘密法の伝授は幼少期より関わりの深い上覚房行慈（一一四八―一二二六）よりなされていることが知られ、建保六年には五秘密法の印相に関して理明房興然（一二一〇―一二〇三）と上覚との相違に言及していることから（明恵上人資料三・一八四頁）、勸修寺流（小野流）の法流によっているといえよう。注意されるのは、明恵は承久二年頃より仏光観を修しているが、仏光観修行中の承久二年七月において五秘密法を講義していることである。『冥感伝』によれば同三年八月には普賢・文殊・観音の三菩薩と共に弥勒の楼閣に昇るとする四聖が現れる好相を感得しており（日蔵七四一〇八―一〇九上）、『秘法蔵』撰述以前のこうした実践が同体説の理論形成に影響を与えた可能性が推測される。

三、『秘法蔵』における同体説

『秘法蔵』二巻は、仏光観について①総示大意②出教証③料簡正修義の三部構成により解説を施したもので、同体説は③料簡正修義に説かれている。

本書における仏光観解釈の基本的立場として注目されるのが、『入解脱門義』において李通玄（六三三―七三〇）の三聖円融説に基づいて解釈されていた仏光観が、本書では「今此三昧法門、文殊普賢等五聖、並五十五知識所成、三摩地門ナリ」（大正七二、九四頁上）として五聖によって成立すると規定されている点である。すなわち『秘法蔵』上巻では、行者が観想の対象とすべき眷属菩薩は意樂に任せて選択すべきであるとした上で、「其」中、殊^ニ普賢文殊、或^ハ可^レ加^フ観音弥勒^ヲ」（大正七二、九三頁中）としており、その根拠として明恵は李通玄の『華嚴經合論』を典拠に「何^トナレハ、者、『広論』《華嚴經合論》三聖義中ニ、説^テ行者成仏三聖^ヲ云^フ『文殊・普賢・弥勒』^ト。又^ク説^テ大悲行三聖^ヲ云^フ『文殊・普賢・観音』^ト。出^{シテ}已成果三聖^ヲ云^フ『文殊・普賢・毘盧等』^ト故也」（大正七二、九三頁中）と述べている。このように仏光観による証果の境界を、文殊^ニ智・普賢^ニ理を象徴する従来の三聖円融説から、大悲を表す観音と成仏の相を表す弥勒を加えた境界として把握したことは、明恵の独自の点といえ、五秘密尊との同体を説く上で重要な論拠となっている。すなわち明恵は「又^タ准^{スレハ}三聖為体大智大悲相導、

義^ミ、五秘密瑜伽^ハ、全^ク是^レ彼^ノ三摩地也^一（大正七二・九六頁下）と結論的に述べた後、『五秘密儀軌』の所説と五聖説とを次のように対比する。

如^シ彼^ノ儀軌^ニ説^クカ、則^チ於^ニ身^ノ前^ニ想^シ金剛薩埵^ノ智身^ヲ如^ク自^ラ身^ヲ、觀^ス以^テ四印^ヲ、中^ニ邊^{スル}同^ニ一^ノ月輪^ヲ、同^ニ一^ノ蓮華^上」
（云云）又云^ク、「瑜伽^ト者、常^ニ以^テ四眷屬^ヲ而自^ラ圍邊^シ、処^ニ大蓮華、同^ニ一^ノ月輪^ニ」（云云）又云^ク、「五身同^ニ一^ノ大蓮華^ト者爲^ニ大悲ノ義^ト。同^ニ一^ノ月輪^ト者爲^ニ大智ノ義^ト。是^レ故^ニ菩薩由^ニ大智^ニ故^ニ不^レ染^セ生死^ニ。由^ニ大悲^ニ故^ニ不^レ住^セ涅槃^ニ」（云云）解^{シテ}曰^ク、此^ノ中蓮華^ヲ爲^ニ大悲^ト、月輪^ヲ爲^ニ大智^ト。如^レ文^ノ易^シ知^リ。円光大智ノ義^ハ通^{スル}悲智^ニ法^ニ也。仏地ノ一切功德^ハ皆^ニ以^テ大智^ヲ爲^レスカ体^ト故ナリ。（中略）是^レ則チ今ノ三昧觀門、以^テ五聖ノ功德、理智大悲^ヲ令^メ交徹^セ成^ニ二立^{スル}行者身心^ヲ義^ト大ニ同^ス。（大正七二・九六頁下）

すなわち、『五秘密儀軌』に五尊が住する曼荼羅上の「同一大蓮華」「同一月輪」は、それぞれ大悲・大智を表す、としている点に注目して、月輪は大智を象徴し、大悲は大智の用であるから、両者は別体ではない。したがって仏光三昧觀において行者を成仏に導く五聖の理・智・大悲の義とは、智と悲を体としている点において同一であると指摘している。明恵はこの大智・大悲による關係を、さらに欲・觸・愛・慢の四菩薩との關係に配当している（大正七二・九七頁）。このよ

うに同体説は大智・大悲を媒介として華嚴と密教の尊格が關係付けられており、したがって、仏光觀の実践に際しては、五聖・五秘密いづれを觀想の対象としても問題はなく、「兩宗ノ証果何^ソ強^テ好^ニ差異^ヲ乎^一」（大正七二・九九頁上）として、顯・密いづれの証果にも相違はないとされる。

さて、注意されるのは、こうした五聖と五秘密尊との同体の根拠として、次のような密教的立場から教証を示している点である。

問^テ曰^ク、何故^ニ轉^{シテ}此^ノ五尊^ヲ成^ニスルヤ此^ノ五聖^ヲ乎。答^フ。依^{ラハ}①本經ノ儀軌ノ意^ニ、五部ノ諸尊一切曼荼羅ハ不^レ離^ニ此^ノ五身^ヲ、同^ニ一^ノ月輪、円光同^ニ一^ノ蓮華ナリ。如^レ次ノ表^ニ大智大悲義^ヲ（云云）是^レ故^ニ此^ノ五聖^ハ皆攝^ニ在^ス此^ノ中^ニ。即^チ分^ニ大智大悲ノ体用^ヲ爲^ニシ四聖^ト、合^ニシテ四聖^ヲ成^ニスルカ毘盧遮那^ヲ故也。故^ニ②儀軌^ニ云^ク、「金剛薩埵ノ三摩地」等、如^シ上^ニ引^クカ。其ノ義可^シ准知^ス。（中略）或^ハ③秘記^ニ云^ク、「從^ニリ大日^一出^シ四仏^ヲ、從^ニリ四仏^一出^シ四波羅蜜^ヲ、從^ニリ此^レ出^シス普賢・文殊・觀音・弥勒^ヲ」（云云）即^チ此^ノ証拠也。（大正七二・九八頁下〜九九頁上）

すなわち、なぜ五尊が五聖に転じることができるかといえ
ば、①五部の諸尊、すなわち一切諸尊は五秘密と別体ではなく、その五秘密尊は大智・大悲を表す同一月輪・同一蓮華上に住しているから、智慧の体・用に象徴される五聖はこの中

に包摂される。また②『五秘密儀軌』には「金剛薩埵ノ三摩地^ハ名^ニ一切諸仏法^ト也。此ノ法能^ク成^シ諸ノ仏道^ヲ、若^シ離^レ此^レ更^ニ無^シ有^レ仏^ト」（大正二〇、五三八頁）とあるように一切の諸仏法は金剛薩埵の三摩地から離れることはなく、③『秘記』には「大日如来より四聖が出生される」というように、結局のところ華嚴の四聖は大日如来に包摂される存在であるとしている。この『秘記』なる文献については未詳であるが、こうした明恵の解釈では、華嚴と密教との「団体」とは各々の教説が対等に位置づけられるのではなく、密教教義を基盤として、そこに華嚴の五聖説が組み込まれるという構造を有しているのである。

四、まとめ

本稿では、明恵の団体説において五秘密尊と「団体」とする根拠は五聖が密教説の面から包摂される関係によつて成り立っていることを指摘した。従来、団体説における華嚴と密教との関係は対等な一致とされてきたが、団体説の構造によれば、明恵はそもそも顕教の菩薩であっても「大日所成の諸尊」とする密教教義に基づく顕密理解に基本的立場があつたといえる。明恵は、聞書類において「相^ヲ尽^シ性^ヲ窮^メテ諸法ノ道理^ヲ説^ク顕教ナリ。初小乗^{ヨリ}終リ花嚴^ニイタルマテ真言ノ宗義^ニ不可違也。或^ハ浅教ノ名言^ニ同^シテ是^ヲ引入^テ秘密ノ事相^ニ習入^レハ其

ノ方^ハ又浅教^{ナレトモ}秘密深奥^ニ同^{スルナリ}。サレハ花嚴等ノ法門^ヲ引入^テ真言ノ事相^ニ習^ニハ教門ノ前^ニモ深也。秘密ノ方^ニモ深也」（『真聞集』巻二、明恵上人資料三、二三六―二三七頁）と述べており、団体説は、こうした密教説を華嚴など顕教の法門を包摂するものとする思想的立場に基づいて形成されたと考えられる。

1 この名称は『秘宝蔵』には見出せないが、宝治二年写本『五秘密与五聖団体事』の具名に基づいて使用することにした。

2 石井教道「嚴密の始祖高弁」（『大正大学学報』三、一九二八）後「明恵上人と高山寺」に所収。三四頁。末本文美士「明恵と光明真言」（『鎌倉仏教形成論』（二五八―二五九頁）参照。前川健一「明恵の教判説について」（『東洋哲学研究所紀要』十四、一九九八）

3 石井氏前掲論文参照。なお近年、柴崎照和氏は五秘密と団体とされる五聖の成立過程に触れており、①仏光三昧觀を五聖との関係で捉える思想は、『華嚴経』「入法界品」の構造に基づいていること、②明恵の五聖説は、成立史的には、三聖から五聖へと展開している、とする重要な指摘を行なっている（柴崎照和『明恵上人思想の研究』二〇〇三、二二五頁）。

〈キーワード〉 明恵、秘宝蔵、五秘密与五聖団体説

（龍谷大学大学院）

more acceptable to them.

153. Myōe's Understanding of the Exoteric and Esoteric Buddhism: Focusing on 'Gohimitsu goshō to dōtaishetsu'

Sei NORO

The theory of Identity between the Five Secrets and the Five Sacred 'Gohimitsu goshō to dōtaishetsu 五秘密与五聖同体説' was described in the *Kegon bukko zanmaikan hihōzō* 華嚴仏光三昧觀秘宝蔵 volume two written by Myōebo Kōben 明恵房高弁 (1173-1232) in his later life. According to that theory, the five saints, 'Goshō 五聖,' Mañjuśrī, Samantabhadra, Maitreya, Avalokiteśvara and Vairocana, originating in the *Avatamsaka* sūtra, and the five secret worthies, 'Gohimitsuson 五秘密尊,' of Esoteric Buddhism are essentially identical. When Myōe of the 'Gohimitsu' is studied, it turns out that Myōe had a keen interest in 'Gohimitsuhō 五秘密法' from an early stage. He set up in the *Hihōzō* the Goshō theory that he developed from the 'Sansheng yuanrong' theory 三聖円融説 of Li Tongxuan 李通玄 (635-730). And he insisted that 'Goshō' is the same as 'Gohimitsu' in the point that both take great wisdom and great compassion as their essence. However, 'Goshō' and 'Gohimitsu' are not equal in their mutual relationship but 'Goshō' of Huayan is included in 'Gohimitsu,' not vice versa. In this paper, the place of Esoteric Buddhist doctrine in Myōe's thought is considered by examining the 'Dōtaishetsu' described in the *Hihōzō*.

154. For taking a *Tsuboi* (壺井) *Tsūbō-ji* temple (通法寺) in Ancient *Kawachi* Country (河内国): Connected with Priest *Ryukō* (隆光)'s tombstone of ruined *Tsubo-ji* temple (通法寺址) in *Habikino* City (羽曳野市)

Katsuhiko KOGA

Priest Ryukō 隆光's tombstone is found in the following four places. (1) Tōshōdai-ji 唐招提寺, (2) Murō-ji 室生寺, (3) Otokuni-dera 乙訓寺, (4) the ruined Chōshō-ji 超昇寺址. We can add (5) the ruined Tsūbō-ji 通法寺址 to